

第113回日本皮膚科学会総会学会報告

The 113th Annual Meeting of the Japanese Dermatological Association

会頭 岩月啓氏 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科学)

Keiji Iwatsuki (Department of Dermatology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

第113回日本皮膚科学会総会を平成26年5月30日(金)～6月1日(日), 会頭として国立京都国際会館で主催いたしました。本総会は, 日本皮膚科学会が「公益社団法人」として出発する最初の総会でした。テーマは, 「皮膚科の職人魂」で, プロの皮膚科医として, 熱意と生きがいをもって日々の診療にあたり, 自己研鑽し, 医師としての責務を果たし, 社会貢献したいという自身の想いをテーマに込めました。総会テーマに合わせて, ポスターや関連刊行物には, 岡山大学皮膚科同門で画伯の故香曾我部暁彦先生の作品を何点か使わせていただきました。力強い「茜色の空」が学会テーマをよく表していると思います。

岡山大学皮膚科学教室が主催する総会としては, 第29回(昭和4年)旭憲吉/皆見省吾会頭, 第51回(昭和27年)根岸博会頭, 第71回(昭和47年)谷奥喜平会頭, 第84回(昭和60年)野原望会頭, 第96回(平成7年)荒田次郎会頭以来17年ぶり6回目になりました。

本総会を開催するにあたり, 会頭として次のようなビジョンを示しました。①一般応募演題の十分な討論と評価, ②皮膚科トピックスを平易な言葉で会員に伝える, ③皮膚科専門医の在り方, ④アジアにおける日



会頭講演



学会ポスター

本皮膚科学会の役割を再認識, ⑤大学病院や基幹病院だけではなく, 皮膚科開業の先生方にも役立つ内容にする, ⑥皮膚科診療を支えるナース, コメディカルにもメッセージを伝える, ⑦岡山大学皮膚科学教室の知財を惜しみなく公開する。これらの企画は一般会員にも受け入れられ, 6,000人の参加者がありました。多数の方々のご支援とご協力により, 成功裏に学会を終了いたしました。

斬新な学会企画

1. 土肥記念国際交換講座

自然免疫と抗菌ペプチド研究者で, 日本人留学生をお世話いただいた Richard L. Gallo 教授(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校)をお招きしました。本講演の格調を重んじて, 講演会場(ウェスティン都ホテル京都)を移し, 聴講は事前登録としました。ライブ映像にてポスター会場(国立京都国際会館アネックスホール)に中継し, 2日目以降はビデオ映像を上映しました。

2. 特別講演「新しい専門医制度について」

日本専門医制評価・認定機構 池田康夫理事長から



Richard L. Gallo 教授 (土肥記念国際交換講座)

基調講演をいただき、日本皮膚科学会で専門医研修カリキュラム・プログラム WG を交えてパネルディスカッションしました。

3. 皮膚科トピックスを読み解く

最近1, 2年の皮膚科学の様々なジャンルの内容を横断的に学ぶために「皮膚科トピックスを読み解く基礎編, 臨床編」を企画しました。読み解くが如く, 簡潔に, 分かりやすく解説していただき, 非常に有意義な特別企画でありました。

4. アブストラクト賞

ここ数年一般演題はポスター発表のみでしたが, 応募演題の中からプログラム委員会, 総会事務局そして日本皮膚科学会学術委員会の審議を経て, 「アブストラクト賞」27題を授与し, 口演発表をしていただいた。一般演題応募数が455題に達し, 直近5年間では最多の応募数になりました。

5. AGORA for Asian Dermatologists

アジアにおける日本皮膚科学会の役割という視点から, 「AGORA for Asian Dermatologists」を企画しました。「AGORA」は, 古代ギリシャ都市国家の「広場」を意味し, 市民が集まり, 社会や政治など世間の様々な問題を語り合った場所です。日本皮膚科学会はEADC (Eastern Asia Dermatology Congress), ADC (Asian Dermatological Congress), DCDD (Diploma Course in Dermatology and Dermatosurgery) やILDS (International League of Dermatological Societies) などの活動を通して国際貢献を果たしてきました。また, アジア諸国から多くの留学生を受け入れてきました。そこで, 国内で勉強中の留学生や, 上記の国際的的事业に参加したアジアの若い皮膚科医に, 本総会へ参加するための

travel fund を提供して, 日本の皮膚科医も交えて学術成果を自由に討論するセッションを企画しました。基調講演は, Jean Kanitakis 先生 (リヨン), Jun Youn Lee 先生 (ソウル) にお願ひし, 次世代を担うアジアの若手皮膚科医の育成と, 国際交流を通して相互理解を深めることができました。

6. One day 講習会

好評なスペシャルティナーズ講習会に加えて, ナース・コメディカルのために, 皮膚病診療における創傷, 褥瘡, 熱傷や, 創傷被覆材料の考え方の教育講演を加えて, 「One day 講習会」として開催しました。

岡山大学皮膚科学教室開講百周年記念関連事業として知財を活用

岡山大学皮膚科学教室は1913年 (大正2年) に筒井八百珠初代教授が「皮膚病花柳病科教室」を開講してから, 2013年 (平成25年) をもって百周年を迎え, 開講百周年記念講演会・学術集会を2013年9月14日, 15日に開催しました。記念すべき節目を迎えて, 岡山大学皮膚科学教室の歴史, 業績, 知的財産を整理し, 数種の書籍を刊行しました。その中から岡山地方会の症例レジストリ日常を編集した診療に役立つ「皮膚病アトラス集 症例から学ぶ Vol. 1」のCD版を配布しました。岡山大学皮膚科はフランス皮膚科学派との交流が深く, 両学派の共同作業のもとフランス皮膚科学の古典を集め, 同門の大熊登先生により翻訳された「原



「原著に学ぶ：フランス皮膚科学の古典」と編集担当者

左上：左から Drs. Martine Bagot, Louis Dubertret (Paris), 左下：左から Drs. Marek Haftek, Jean-Francois Nicolas, Jean Kanitakis (Lyon), 右上：左から岩月啓氏, 荒田次郎, 大熊 登, 濱田利久先生



岡山大学皮膚科学教室百周年記念展示

著に学ぶ：「フランス皮膚科学の古典」を総会に合わせて刊行し、CD版を配布しました。

さらに百周年関連事業として岡山大学皮膚科の変遷をビデオ映像に編集し、総会の会頭講演、会員懇親会、ラウンジでも上映しました。教室の歴史についてはパネルをイベントホールまでの通路に特別展示しました。

徹底した岡山色でおもてなし

皮膚科学会総会は横浜と京都の交互開催となり、主催大学が地元色を出すのはかなり難しかったですが、

青山事務局長の粘り強い交渉により、ポスター会場(岡山地ビールと食べ歩きコーナー)で独歩ビール、蒜山焼きそば、じゃこ天を出ささせていただくことができました。さらに会員懇親会でも、津山ホルモンうどん、えびめし、桃太郎トマトゼリー、白桃ゼリー、ままかり、岡山発祥の地酒雄町、白桃のリキュールでおもてなしができました。恒例のスイーツ&ドリンクサービスにも京都銘菓に加え、総会オリジナルきびだんごやチロルチョコを提供でき、忙しいプログラムの合間にお楽しみいただきました。

コンgresバックは日本のジーンズ生産の発祥地、倉敷児島からデニム素材が採用されました。さらに皮膚科女医の意見を取り入れたドクタージーンズを共同制作し、当日はブースを設け、70本近く売れました。青山事務局長の仕掛けが見事に成功し、メディアにも注目されました。地元企業とのタイアップで、皮膚科医師に留まらず、新たな展開をみせています。

会頭の夢を叶えて下さった青山裕美事務局長、山崎修実行委員長と教室員、同門、関連病院の皆様にご心から感謝申し上げます。



総会オリジナルきびだんご



ドクタージーンズ

